

令和3年度春の政策協議〔個別協議〕
協議資料

4月16日【戦略企画部】

	協議項目名	頁
1	高等教育機関の充実	P1

【主担当部局：戦略企画部】

県民の皆さんとめざす姿（令和5年度末での到達目標）

県内の高等教育機関における教育や研究等の充実により、一層魅力が高まるとともに、学びの選択肢の拡大により、三重県で学び、働き、住み活躍する若者が増えています。

また、県内高等教育機関と産業界等地域との連携が進み、共同研究や地域の課題解決に向けた取組が活発化し、若者から選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上が実現しています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	B (ある程度進んだ)	判断理由	「主指標」の目標は達成できませんでしたが、施策全体の進展状況から「ある程度進んだ」と判断しました。
----------	----------------	------	---

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

主指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
県内高等教育機関入学者の県内からの入学者の割合(県内入学率)	/	60.0%	1.00	61.0%	/	63.0%
	55.5%	59.7% 【速報値】		/	/	
目標項目の説明と令和3年度目標値の考え方						
目標項目の説明	県内高等教育機関に入学した者のうち、県内からの入学者の割合（県内入学率）					
3年度目標値の考え方	平成30年度実績値（平成31年4月入学）の58.1%から、毎年1%ずつ増加させることをめざし、令和3年度の目標値（令和4年4月入学）を61.0%としました。					

副指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
県内高等教育機関卒業生の県内就職者の割合(県内就職率)	/	51.0%	0.96	52.0%	/	54.0%
	48.2%	49.2% 【速報値】		/	/	
県内高等教育機関と取り組む産学官連携の件数(累計)	/	40件	1.00	85件	/	190件
	—	48件		/	/	

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額等	11	61	46		
概算人件費		36			
(配置人員)		(4人)			

令和2年度 of 取組概要と成果、残された課題

- ① 県内高等教育機関の一層の魅力向上や学びの選択肢の拡大等に向けて、「高等教育コンソーシアムみえ」において、地域課題に対して深く関心を持ち、主体的に活躍する人材「三重創生ファンタジスタ」を約 600 名養成しました。また、三重への知識・愛着等を持てるよう共同開発した「食と観光実践」や「三重の歴史と文化」などの「三重を知る」共同授業を 3 高等教育機関で 4 科目実施したほか、8 高等教育機関で 34 科目にわたる単位互換制度を実施しました。今後も引き続き、高等教育コンソーシアムみえの取組を通じ、県内高等教育機関の一層の魅力向上に向けた取組を進めていくことが必要です。さらに、県内で学び、成長したいという若者の希望の実現に向けて、大学進学時における学びの選択肢の拡大を図る必要があります。
- ② 大学生等の奨学金返還額の一部を助成する制度では、「過疎地域などの指定地域への居住」だけでなく、新たに「県内での居住及び県内産業への就業等」を満たす場合も対象にするとともに、対象者に既卒者も加え、募集人数を倍増するなど制度の充実を図り、支援対象者を 40 人認定しました。今後も、引き続き制度を適切に運用していくことが必要です。
- ③ 産学官が連携し、若者から選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上につながる共同研究を促進するため、三重大学と東京大学、東員町、県等が連携し、「A」と電力データを用いたフレイル検知の実証実験を行い、分析を進めました。また、東京大学地域未来社会連携研究機構三重サテライト拠点を活用して、東京大学、三重大学等と連携し、産学官で実現する産業競争力の強化を目的にしたセミナーを開催しました。引き続き、県内高等教育機関相互や産学官のネットワークを活用して、分野の枠を越えて連携した取組を推進します。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の影響による家計の急変等に伴い、学びの継続に不安を抱える県内高等教育機関の学生のうち、奨学金受給者 4,029 名に対し食事券を交付し、生活を支援しました。

・ 主指標「県内高等教育機関入学者の県内からの入学者の割合（県内入学率）」の令和2年度（令和3年4月入学）の実績については、前年度から 4.2%の大幅な上昇となりましたが、59.7%と目標を達成できませんでした。生徒の志望校決定の時点で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いており、地元の高等教育機関を志望する傾向が強まったことが、改善の一因と考えています。

・ 副指標「県内高等教育機関卒業生の県内就職者の割合（県内就職率）」の令和2年度（令和3年3月卒業）の実績については、前年度と比較すると 1.0%上昇しましたが、結果的に 49.2%と目標を達成できませんでした。地域課題への関心を持つことで県内就職につなげるための三重創生ファンタジスタの養成等に取り組んでいますが、中京圏の有効求人倍率は全国平均を上回り、県内高等教育機関においても県外からの求人が多い傾向が続いたことが、目標を達成できなかった要因の一つと考えられます。

・ 一方で、県内高等教育機関と連携し産学官連携に取り組んだ結果、副指標「県内高等教育機関と取り組む産学官連携の件数（累計）」については、令和2年度の目標を達成することができました。

令和3年度の取組方向

【戦略企画部 副部長兼ひとづくり政策総括監 山本 秀典 電話:059-224-2009】

- ①三重で学び、働き、住み活躍する若者を増やすため、「高等教育コンソーシアムみえ」において、引き続き「三重創生ファンタジスタ」の養成、「三重を知る」共同授業や単位互換制度を実施していきます。特に、「三重創生ファンタジスタ」については、従来の「食と観光」「次世代産業」「医療・健康・福祉」の3分野だけでなく、新たに「文化・社会・公共」「教育」の2つの分野を加え、より多くの学生が「三重創生ファンタジスタ」の資格を取得できるよう取り組みます。
- ②県内で学び、成長したいという若者の希望の実現に向けて、大学進学時における学びの選択肢の拡大を図る必要があることから、県内高校生等を対象にした高等教育における学びのニーズを調査するなど、県立大学設置の是非について検討します。
- ③若者の県内定着を一層促進するため、県内高等教育機関が、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う環境変化をふまえつつ、独自の強みを生かして行う県内入学者や県内就職者の増加につながる取組を支援します。
- ④大学生等の奨学金返還額の一部を助成する制度では、若者の県内定着を一層促進するとともに、進学で県外に出た学生などが再び三重県に戻り定着する流れをつくるため、県内外の学生に対して幅広く周知を行い、制度の活用を促します。
- ⑤若者から選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上につながるよう、県内高等教育機関相互や産学官のネットワークを活用して、分野の枠を越えて連携した取組を推進します。

* 「○」のついた項目は、令和3年度に特に注力するポイントを示しています。